

City Life NEWS

全国で注目される施策や課題は、地域で暮らす私たちにどう影響するのか?身近に起きた出来事やトレンドなど、幅広い分野のニュースを紹介していきます。ネットでもさまざまなニュースを紹介しています。



シティライフNEWS で検索

新たな商業施設も誕生予定 変革の時を迎える千里中央

日本初の大規模ニュータウンとして1962年にまちびらきした千里ニュータウン。その交通の要所として、また中核として、1970年の大阪万博開催に合わせて開業したのが北大阪急行電鉄・千里中央駅だ。北摂随一の大規模な生活都市としてだけでなく、計画的なまちづくりの中において整備された豊かな緑や公園を有するなど、多様性に富んだ街として長らく発展してきた。そんな千里中央地区が今、変革の時を迎えているという。

豊中市と駅周辺地権者などで構成する「千里中央地区活性化協議会」は、今年3月に「千里中央地区活性化基本計画」を策定した。今後10年程度の間に取り組むべき方向性や方針を示したもので、その中には新たな街づくりによる活性化を目指した内容が含まれている。基本計画には大きく分けて二つの注目すべき点がある。一つは2023年度に予定されている北大阪急行電鉄の延伸。そしてもう一つ、当該地域内にある大型施設の老



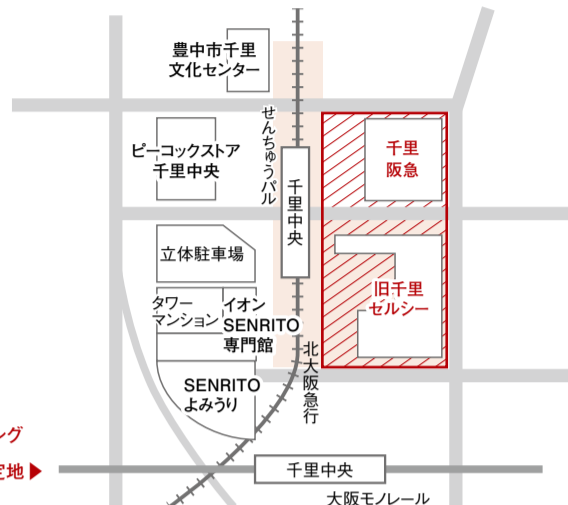
再開発が予定されている千里セルシー跡地

朽化によって再開発の必要性に迫られていることだ。

交通面での再整備については、北大阪急行の箕面方面への延伸を契機に、今まで分かりにくかった公共交通の乗換動線をわかりやすくし、阪急バス乗降場を北大阪急行駅中央改札付近に集約・再配置する。また、散在している駐車場を再編することで今まで駅を挟んで東西で偏りがあつた回遊性を向上させたいとしている。

商業面においての再整備も進められている。商業エリアと位置付けている東町ゾーン、その中央部が再整備検討対

がエイチ・ツー・オーリテイリングによる再開発予定地



象とされており、阪急阪神百貨店を傘下に持つエイチ・ツー・オーリテイリングは千里阪急と今年5月末をもって閉館した千里セルシーの一体開発を発表している。延床面積は10万㎡級と大阪府下でも最大級。阪急系列の商業施設を運営する事業体だけに、百貨店である千里阪急を中心に様々なショップが入る「西宮ガーデンズ」のような商業施設の誕生が噂されているが、詳細はまだ発表されていない。南西部の先行開発区域では読売新聞や関西電力グループが再整備を進めた「SENRITO(センリト)」がオープン済み。よみうり文化センターと周辺地域が、タワーマンションとイオンSENRITO専門店、その他約60の店舗やクリニックに生まれ変わり、これらはすでに運営されている。



2017年にオープンしたSENRITO

千里中央地区は都市再生緊急整備地域に指定され、全国的にも都市の再生を図るべき拠点と位置付けられている。日本初の大規模ニュータウンとして千里ニュータウンを誕生させた時と同じように、今回の活性化計画も、都市再生の全国模範となりえるだろうか。



マスターズ甲子園2019 PL学園が再び甲子園に



「マスターズ甲子園2019」が11月9・10日に阪神甲子園球場で開催された。各地区の予選を勝ち抜いた16チームが熱戦を繰り広げた。今大会の注目は、1985年高校野球選手権夏の決勝以来の甲子園出場となるPL学園高校OB。34年ぶりに高校野球の聖地・甲子園にあのPL学園が帰ってきた!

大阪代表としてマスターズ甲子園初出場を果たしたPL学園高校OB。高校時代は5季連続出場、2度の全国制覇を成し遂げ、その後はプロ野球・読売ジャイアンツでも活躍した桑田真澄さんがOB会長としてチームを引っ張る。群馬県代表、利根商業OBとの試合では4回に登板。

重心が低く柔らかなピッチングフォームは現役時代と変わらなかった。「50歳を過ぎて五十肩もあって思うように動かない」と苦笑いながら「気持ちは高校生のつもり」と120キロを超えるストレートと桑田投手の代名詞、カーブも投じる堂々のピッチングで1イニングを2安打無失点に抑えた。その後はショートの手配につき、打ってはライトオーバーのタイムリーを放つ活躍で、チームは5-1で勝利した。試合後、PL学園を春夏通算6回の優勝に導いた名將・中村順司総監督は「甲子園はやはり聖地ですね。このユニフォームを着て戦えたことがうれしい。選手たちも応援のみならずも一体になって久しぶりに盛り上がりましたね」と笑顔。

また、この日は3塁側内野席にPL学園名物の人文字応援も復活した。全国からOBや一般参加者630人が集まり「PL」の人文字を作り、カラーボードを使っての応援を繰り広げた。さらにプラスバンドやチアリーダーなどの応援も含めると1,400人となる大応援団が選手たちを後押し。PLの応援歌「ヴィクトリー」「ウイニング」が流れると「懐かしい。これを聴くとKKコン

ビが活躍した頃のPLを思い出すね」と涙するファンも。硬式野球部は2016年を最後に活動休止している。OB会は復部への話し合いを続けており、マスターズ甲子園出場は後輩たちへのエールになるだろう。桑田OB会長も「15歳で初めてここでプレーして、この球場に育ててもらった。次の世代につなげていけたら」と話した。

過去のマスターズ甲子園の記事は右記にて

マスターズ甲子園2019大阪代表はPL学園に決定

永遠の高校球児たちへマスターズ甲子園

